



誰もが住んでみたい村に  
農業農村整備

令和7年度

駅館川農地整備事業

駅館川地区管水路施工技術検討業務

# 積 算 書

(当初)

九州農政局  
駅館川農地整備事業所

















事業名		駅館川農地整備事業				
業務名		駅館川地区管水路施工技術検討業務				
業務別業務名		駅館川地区管水路施工技術検討業務				
コード	名称(規格)	数量	単位	単価	金額	備考
S02115	主任技師 主任技師		人	66,900		歩A・単A
S02115	技師(A) 技師(A)		人	59,600		歩A・単A
S02115	技師(B) 技師(B)		人	48,500		歩A・単A
S02115	技師(C) 技師(C)		人	40,300		歩A・単A
S02115	技術員 技術員		人	36,100		歩A・単A
S63007	現地調査(基準日額) 設計労務(直接人件費外業)		式	87,500		歩A・単A
S63010	打合せ(設計業務基準日額) 打合せ(設計業務基準日額) 一般工種,着手前・最終,1.00人,1.00人,0.00人,0.5日,0日		回	63,250		歩A・単A
S63010	打合せ(設計業務基準日額) 打合せ(設計業務基準日額) 一般工種,中間,0.00人,1.00人,1.00人,0.00人,0.5日,0日		回	54,050		歩A・単A
S63010	打合せ(設計業務基準日額) 打合せ(設計業務基準日額) 一般工種,着手前・最終,2.00人,1.00人,0.00人,0.5日,0日		回	96,700		歩A・単A
S63017	現地調査時 旅費交通費(設計外業宿泊用) ライトバン,0.50日,2日,2時間		式	12,458		歩A・単A
S63023	電子納品版業務報告書作成 電子納品版業務報告書作成 1,A-4,500,8cm,0		式	7,445		歩A・単A
S63023	公表用成果物電子データ 電子納品版業務報告書作成 0,A-4,500,8cm,1		式	47		歩A・単A
T00001	施工技術検討(補足設計) 板場幹線水路		式	2,044,820		歩A・単A
T00002	施工技術検討(補足設計) 平山支線水路		式	1,665,930		歩A・単A
T00003	開示用成果物の作成		式	18,097		歩A・単A
T00004	施工技術検討(補足設計) 有徳原支線水路		式	2,838,520		歩A・単A
T00005	施工技術検討(補足設計) 松本支線水路		式	1,910,880		歩A・単A
T00006	施工技術検討(補足設計) 上ノ原支線水路		式	1,665,930		歩A・単A

事業名	駅館川農地整備事業
業務名	駅館川地区管水路施工技術検討業務

業務別業務名: 駅館川地区管水路施工技術検討業務

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
*** S単 - 1号 ***						
S02115	主任技師		人		1,000	歩A 当たり算出
	主任技師			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04003 基(B)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04003	主任技師	1.000	人	66,900	66,900	
	合計				66,900	算出数量 1.000 人
	単価				66,900	
*** S単 - 2号 ***						
S02115	技師(A)		人		1,000	歩A 当たり算出
	技師(A)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04004 基(B)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04004	技師(A)	1.000	人	59,600	59,600	
	合計				59,600	算出数量 1.000 人
	単価				59,600	
*** S単 - 3号 ***						
S02115	技師(B)		人		1,000	歩A 当たり算出
	技師(B)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04005 基(B)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04005	技師(B)	1.000	人	48,500	48,500	
	合計				48,500	算出数量 1.000 人
	単価				48,500	
*** S単 - 4号 ***						
S02115	技師(C)		人		1,000	歩A 当たり算出
	技師(C)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04006 基(B)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04006	技師(C)	1.000	人	40,300	40,300	
	合計				40,300	算出数量 1.000 人
	単価				40,300	
*** S単 - 5号 ***						
S02115	技術員		人		1,000	歩A 当たり算出
	技術員			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04007 基(B)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04007	技術員	1.000	人	36,100	36,100	
	合計				36,100	算出数量 1.000 人

事業名	駅館川農地整備事業
業務名	駅館川地区管水路施工技術検討業務

業務別業務名: 駅館川地区管水路施工技術検討業務

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	単 価				36,100	
	*** S単 - 6号 ***					
S63007	現地調査(基準日額)		式		1,000	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費外業)					時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 制約作業時間:0.0 冬期補正:なし
	1)主任技術者の人数	0.00人				豪雪補正:なし 亜熱帯補正:なし 基本給時間:8.0 超勤時間:0.0
	2)技師長の人数	0.00人				
	3)主任技師の人数	0.50人				
	4)技師Aの人数	0.50人				
	5)技師Bの人数	0.50人				
	6)技師Cの人数	0.00人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04003	主任技師					
	外業	0.500	人	66,900	33,450	
R04004	技師(A)					
	外業	0.500	人	59,600	29,800	
R04005	技師(B)					
	外業	0.500	人	48,500	24,250	
	合 計				87,500	算出数量 1,000 式
	単 価		式		87,500	
	*** S単 - 7号 ***					
S63010	打合せ(設計業務基準日額)		回		1,000	歩A 当たり算出
	打合せ(設計業務基準日額)					時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 制約作業時間:0.0 冬期補正:なし
	一般工程,着手前・最終,1.00人,1.00人,0.00人,0.00人,0.5日,0日					豪雪補正:なし 亜熱帯補正:なし 基本給時間:8.0 超勤時間:0.0
	1)設計工程	一般工程				
	2)打合せ	着手前・最終				
	3)設計用主任技師人数	1.00人				
	4)設計用技師(A)人数	1.00人				
	5)設計用技師(B)人数	0.00人				
	6)設計用技師(C)人数	0.00人				
	7)打合せ日数	0.500日				
	8)往復移動日数	0.000日				
R04003	主任技師					
	外業	0.500	人	66,900	33,450	
R04004	技師(A)					
	外業	0.500	人	59,600	29,800	
	合 計				63,250	算出数量 1,000 回
	単 価		回		63,250	
	*** S単 - 8号 ***					
S63010	打合せ(設計業務基準日額)		回		1,000	歩A 当たり算出
	打合せ(設計業務基準日額)					時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 制約作業時間:0.0 冬期補正:なし
	一般工程,中間,0.00人,1.00人,1.00人,0.00人,0.5日,0日					豪雪補正:なし 亜熱帯補正:なし 基本給時間:8.0 超勤時間:0.0
	1)設計工程	一般工程				
	2)打合せ	中間				
	3)設計用主任技師人数	0.00人				
	4)設計用技師(A)人数	1.00人				
	5)設計用技師(B)人数	1.00人				
	6)設計用技師(C)人数	0.00人				
	7)打合せ日数	0.500日				
	8)往復移動日数	0.000日				
R04004	技師(A)					
	外業	0.500	人	59,600	29,800	
R04005	技師(B)					
	外業	0.500	人	48,500	24,250	
	合 計				54,050	算出数量 1,000 回
	単 価		回		54,050	
	*** S単 - 9号 ***					
S63010	打合せ(設計業務基準日額)		回		1,000	歩A 当たり算出
	打合せ(設計業務基準日額)					時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 制約作業時間:0.0 冬期補正:なし
	一般工程,着手前・最終,2.00人,1.00人,0.00人,0.00人,0.5日,0日					豪雪補正:なし 亜熱帯補正:なし 基本給時間:8.0 超勤時間:0.0
	1)設計工程	一般工程				
	2)打合せ	着手前・最終				

事業名 駅館川農地整備事業						
業務名 駅館川地区管水路施工技術検討業務						
業務別業務名: 駅館川地区管水路施工技術検討業務						
コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	3)設計用主任技師人数	2.00人		深夜時間:0.0		
	4)設計用技師(A)人数	1.00人				
	5)設計用技師(B)人数	0.00人				
	6)設計用技師(C)人数	0.00人				
	7)打合せ日数	0.500日				
	8)往復移動日数	0.000日				
R04003	主任技師		1.000 人	66,900	66,900	
R04004	技師(A)		0.500 人	59,600	29,800	
	合計				96,700	算出数量 1.000 回
	単価		回		96,700	
	*** S単 - 10号 ***					
S63017	現地調査時		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	旅費交通費(設計外業宿泊用) ライトバン,0.50日,2日,2時間			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)交通機関区分	ライトバン		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	2)高速道路往復料金(税別)	7,290円				
	3)鉄道往復料金[全員分合算](税別)	0円				
	4)バス往復料金[全員分合算](税別)	0円				
	5)船舶往復料金[全員分合算](税別)	0円				
	6)航空往復料金[全員分合算](税別)	0円				
	7)往復移動日数	0.50日				
	8)ライトバン使用日数	2日				
	9)時間区分	2時間				
	10)技師長外業日数	0.000日				
	11)主任技師外業日数	0.000日				
	12)技師A外業日数	0.000日				
	13)技師B外業日数	4.000日				
	14)技師C外業日数	4.000日				
	15)技術員外業日数	4.500日				
	16)宿泊料金1人当料金(税別)	0円				
	17)宿泊手当1人当料金(税別)	0円				
P54301	高速道路等料金 消費税抜き		1.000 式	7,290	7,290	
M28121	ライトバン[ガソリン]二輪駆動] 乗車定員5名 排気量1.5L		2.000 日	1,650	3,300	
P34001	ガソリン JIS2号 レギュラースタンド		10.800 L	173	1,868	
	合計				12,458	算出数量 1.000 式
	単価		式		12,458	
	*** S単 - 11号 ***					
S63023	電子納品版業務報告書作成		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	電子納品版業務報告書作成 1, A - 4, 500, 8cm, 0			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)報告書部数(部)	1.000		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	2)規格区分	A - 4				
	3)枚数区分(枚)	500		深夜時間:0.0		
	4)厚さ区分	8cm				
	5)CD-R枚数(枚)	0.000				
P43422	報告書焼付代(コピー) A - 4以下 500枚		1.000 部	6,750	6,750	
P43543	簡易加除式ファイル A 4縦型幅8cm(チューブ・パイプファイル)		1.000 冊	695	695	
P43602	CD-R CD-R(記録面色素フタロシアニン)700MB		0.000 枚	47	0	
	合計				7,445	算出数量 1.000 式
	単価		式		7,445	
	*** S単 - 12号 ***					
S63023	公表用成果物電子データ		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	電子納品版業務報告書作成 0, A - 4, 500, 8cm, 1			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)報告書部数(部)	0.000		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	2)規格区分	A - 4				
	3)枚数区分(枚)	500		深夜時間:0.0		
	4)厚さ区分	8cm				



事業名	駅館川農地整備事業					
業務名	駅館川地区管水路施工技術検討業務					
業務別業務名: 駅館川地区管水路施工技術検討業務						
コード	名称(規格)	数量	単位	単価	金額	備考
	*** 丁単 - 1号 ***					
T00001	施工技術検討(補足設計)		式		1.000	歩A 当たり算出
	坂塚幹線水路					
S02115	主任技師	4.400	人	66,900	294,360	S単 1号
S02115	技師(A)	9.700	人	59,600	578,120	S単 2号
S02115	技師(B)	10.900	人	48,500	528,650	S単 3号
S02115	技師(C)	8.000	人	40,300	322,400	S単 4号
S02115	技術員	8.900	人	36,100	321,290	S単 5号
	合計				2,044,820	算出数量 1.000 式
	単価		式		2,044,820	
	*** 丁単 - 2号 ***					
T00002	施工技術検討(補足設計)		式		1.000	歩A 当たり算出
	平山支線水路					
S02115	主任技師	3.700	人	66,900	247,530	S単 1号
S02115	技師(A)	7.800	人	59,600	464,880	S単 2号
S02115	技師(B)	8.900	人	48,500	431,650	S単 3号
S02115	技師(C)	6.500	人	40,300	261,950	S単 4号
S02115	技術員	7.200	人	36,100	259,920	S単 5号
	合計				1,665,930	算出数量 1.000 式
	単価		式		1,665,930	
	*** 丁単 - 3号 ***					
T00003	開示用成果物の作成		式		1.000	歩A 当たり算出
S02115	技術員	0.500	人	36,100	18,050	S単 5号
S63023	公表用成果物電子データ 0, A - 4,500,8cm,1	1.000	式	47	47	S単 12号 算出数量 1.000 式
	合計				18,097	
	単価		式		18,097	
	*** 丁単 - 4号 ***					
T00004	施工技術検討(補足設計)		式		1.000	歩A 当たり算出
	有徳原支線水路					
S02115	主任技師	5.600	人	66,900	374,640	S単 1号
S02115	技師(A)	13.700	人	59,600	816,520	S単 2号
S02115	技師(B)	14.800	人	48,500	717,800	S単 3号
S02115	技師(C)	11.600	人	40,300	467,480	S単 4号
S02115	技術員	12.800	人	36,100	462,080	S単 5号
	合計				2,838,520	算出数量 1.000 式
	単価		式		2,838,520	
	*** 丁単 - 5号 ***					
T00005	施工技術検討(補足設計)		式		1.000	歩A 当たり算出



令和7年度 駅館川農地整備事業  
駅館川地区管水路施工技術検討業務

特 別 仕 様 書

九州農政局  
駅館川農地整備事業所

## 第1章 総則

### 第1-1条(適用範囲)

令和7年度駅館川農地整備事業 駅館川地区管水路施工技術検討業務の施行に当たっては、農林水産省農村振興局制定「設計業務共通仕様書」(以下「共通仕様書(設)」という。)によるほか、各共通仕様書に対する特記及び追加事項は、この特別仕様書によるものとする。

### 第1-2条(目的)

本業務は、国営駅館川土地改良事業計画に基づき、板場幹線水路、平山支線水路、有徳原支線水路、松本支線水路、上ノ原支線水路の整備にあたって、施工上発生する課題の対応・検討を行うものである。

### 第1-3条(場所)

この作業の対象となる位置は大分県宇佐市安心院町板場、新貝、鳥越、釜ノ口、塔尾地内で、別添位置図に示すとおりである。

### 第1-4条(土地の立入り等)

1 作業実施のための土地の立ち入り等は、共通仕様書(設)第1-16条によるが、発注者の許可なく土地の踏み荒らし、立木の伐採等を行った場合に対する補償は、受注者の責任において処理するものとする。

### 第1-5条(低入札価格契約における第三者照査)

- 1 予算決算及び会計令(以下「予決令」という。)第85条の基準に基づく価格(以下「調査基準価格」という)を下回る価格で契約した場合には、受注者は「業務請負契約書第11条照査技術者」及び「共通仕様書(設)第1-7条照査技術者及び照査の実施」については受注者が自ら行う照査とは別に、受注者の責任において共通仕様書等を基本とする第三者の照査(以下「第三者照査」という。)を実施しなければならない。
- 2 第三者照査の企業に要求される資格
  - (1)予決令第98条において準用する予決令第70条及び第71条の規定に該当していないこと。
  - (2)九州農政局において、平成31・32年度(当該業種区分)の一般競争(指名競争)参加資格の認定を受けていること。
  - (3)九州農政局長から、建設コンサルタント業務等に関し指名停止を受けている期間中でないこと。
  - (4)共通仕様書(設)第1-30条守秘義務を遵守できるものであること。
  - (5)中立的、公平な立場で照査が可能なものであること。なお、第三者調査を実施するものは受注者との関係において、以下の基準に該当する関係がないこと。
    - ①資本関係
      - (ア)親会社と子会社の関係にある。
      - (イ)親会社を同じくする子会社同士の関係にある。
    - ②人的関係
      - (ア)一方の会社の役員が、他方の会社の役員を現に兼ねている。
- 3 第三者照査を行う照査技術者に要求される資格  
第三者照査を行う照査技術者は、受注者が配置する照査技術者と同等の能力と経験を有する以下のものであること。
  - 照査技術者と同等の同種又は類似業務実績を有する者
  - 照査技術者と同等の技術者資格を有する者
- 4 照査技術者の通知  
受注者は、自ら行う照査のほかに、第三者照査を行う照査技術者を定め発注者に通知するものとする。
- 5 照査計画  
受注者は、第三者の照査方法については、自ら行う照査とあわせて業務計画書に照査計画として、具体的な照査時期、照査事項等を定めなければならない。  
また、照査結果及び照査状況については、その都度監督職員に報告しなければならない。
- 6 報告書原稿作成段階時打合せへの立ち会い  
特別仕様書第4-1条業務打合せに示す打合せのうち、報告書原稿作成段階での打合せ時には、第三者照査を行う照査技術者も立ち会うものとする。

7 第三者照査の照査技術者の AGRIS 登録

共通仕様書(設)第 1-12 条の農業農村整備事業測量調査設計業務実績情報サービス(AGRIS)の登録にあたっては、第三者照査を行った照査技術者の実績登録は認めない。

8 契約不適合責任

引き渡された成果物が種類又は品質に関して契約の内容に適合しないもの(以下「契約不適合」という。)であるときは、業務請負契約書第 41 条契約不適合責任のとおり、受注者に対し、成果物の修補又は代替物の引渡しによる履行の追完を請求することができるものであり、第三者照査を実施したものが責任を負うものではない。

第 1-6 条(管理技術者)

- 1 管理技術者は、共通仕様書(設)第 1-6 条第 3 項によるものとし、農業土木技術管理士以外の資格に係る該当する技術部門・選択科目は次のとおりである。

資 格	技 術 部 門	選 択 科 目
技術士	総合技術監理	農業-農業土木 農業-農業農村工学
	農業	農業土木、農業農村工学
博士	農学	
シビルコンサルティングマネージャ	農業土木	

- 2 予算決算及び会計令第 85 条の基準に基づく価格(以下、「調査基準価格」という。)を下回る価格で契約した場合には、管理技術者は屋外で行う調査の実施に際して現場に常駐するとともに、作業日毎に業務の内容を監督職員に報告しなければならない。

なお、管理技術者が現場での常駐場所を定めた場合、あるいは変更した場合は監督職員に報告することとする。

第 1-7 条(照査技術者)

- 1 照査技術者は、共通仕様書(設)第 1-7 条第 2 項によるものとし、農業土木技術管理士以外の資格に係る該当する技術部門・選択科目は次のとおりである。

資 格	技 術 部 門	選 択 科 目
技術士	総合技術監理	農業-農業土木 農業-農村農業工学
	農業	農業土木、農業農村工学
博士	農学	
シビルコンサルティングマネージャ	農業土木	

- 2 本業務における照査は、「設計業務照査の手引き書(案)」(以下「照査手引き書」という。)に基づき実施する。

また、「照査手引き書」に基づく照査により作成した資料は、共通仕様書(設)第 1-7 条第 5 項に規定する報告書に含めて提出するものとする。

- 3 当該業務の中で照査技術者は、管理技術者を兼務することはできない。

第 1-8 条(配置技術者の確認)

共通仕様書第 1-11 条における業務組織計画の作成及び共通仕様書第 1-12 条に基づく技術者情報の登録にあたっては、次によるものとする。

- 1 受注者は、業務計画書の業務組織計画に配置技術者の所属・役職及び担当する分担業務を明確に記載するものとする。なお、変更業務計画書において、業務組織計画を変更する際も同様とする。
- 2 農業農村整備事業測量調査設計業務情報サービスへの技術者情報の登録は、業務計画書の業務組織計画において位置付けられた技術者を登録対象とし、事前に監督職員の承認を得るものとする。

第 1-9 条(保険加入)

受注者は共通仕様書(設)第 1-37 条に示されている保険に加入している旨を業務計画書に明示しなければならない。また、監督職員からの請求があった場合は、保険加入を証明する書類を提示しなければならない。

## 第2章 設計条件

### 第2-1条(適用する図書)

設計の基本的事項に関しては、下表の「土地改良事業計画設計基準」を優先して適用する。他の図書を適用する場合は、監督職員の指示を受けるものとする。

名 称	工種	制定(改訂)年月
土地改良事業計画設計基準 設計	水路工	平成26年3月
土地改良事業計画設計基準 設計	パイプライン	令和3年6月

### 第2-2条(設計条件)

設計作業における設計条件は、次のとおりである。

#### 1 設計基本条件

##### 【施工技術検討(補足設計:パイプライン)】

- 1) 板場幹線水路 : 設計流量  $Q=0.1200\text{ m}^3/\text{s}$   
設計水圧  $0.110\text{ Mpa}$   
設計延長  $L=621.94\text{ m}$
- 2) 平山支線水路 : 設計流量  $Q=0.0559\text{ m}^3/\text{s}$   
設計水圧  $0.589\text{ Mpa}$   
設計延長  $L=253.20\text{ m}$
- 3) 有徳原支線水路(トリプル配管区間)
  - ①第1減圧水槽掛水路 : 設計流量  $Q=0.0390\text{ m}^3/\text{s}$   
設計水圧  $1.521\text{ Mpa}$   
設計延長  $L=465.99\text{ m}$
  - ②第2減圧水槽掛水路 : 設計流量  $Q=0.0085\text{ m}^3/\text{s}$   
設計水圧  $0.756\text{ Mpa}$   
設計延長  $L=465.96\text{ m}$
  - ③定置配管水路(O線) : 設計流量  $Q=0.0078\text{ m}^3/\text{s}$   
設計水圧  $0.760\text{ Mpa}$   
設計延長  $L=305.01\text{ m}$
- 4) 松本支線水路 : 設計流量  $Q=0.0317\text{ m}^3/\text{s}$   
設計水圧  $0.969\text{ Mpa}$   
設計延長  $L=510.07\text{ m}$
- 5) 上ノ原支線水路(ダブル配管区間)
  - ①自然掛り1号配水路 : 設計流量  $Q=0.1412\text{ m}^3/\text{s}$   
設計水圧  $0.699\text{ Mpa}$   
設計延長  $L=152.468\text{ m}$
  - ②水槽掛り4号配水路 : 設計流量  $Q=0.0088\text{ m}^3/\text{s}$   
設計水圧  $1.064\text{ Mpa}$   
設計延長  $L=152.609\text{ m}$

#### 3 土地改良事業標準設計の適用

土地改良事業標準設計を適用できる構造物については、標準設計を適用するものとする。

### 第2-3条(参考図書)

設計作業の参考にする図書は共通仕様書(設)第2-1条によるほか次表によるものとする。

名 称	発行所	制定(改訂)年月
コンクリート標準示方書(設計編)	(社)土木学会	平成30年3月
コンクリート標準示方書(施工編)	〃	平成30年3月
コンクリート標準示方書(維持管理編)	〃	平成30年10月

設計作業の参考にする図書は共通仕様書(設)第2-1条によるものとする。

### 第2-4条(貸与資料等)

貸与資料は下記のとおりである。

分類	水路区分	貸与資料	数量
設計関係資料	板場幹線	令和4年度駅館川農地整備事業 板場支線水路実施設計他業務 報告書	1部
		令和6年度駅館川農地整備事業 板場幹線水路補足設計業務 報告書	1部
		令和6年度駅館川農地整備事業 板場幹線水路取水工補足設計業務 報告書	1部
		令和6年度駅館川農地整備事業 板場幹線水路他付帯工設計業務 報告書	1部
	平山支線	令和4年度駅館川農地整備事業 平山支線水路他測量設計業務 報告書	1部
	有徳原支線	平成30年度駅館川農地整備事業 有徳原支線水路調査測量設計業務 報告書	1部
		令和4年度駅館川農地整備事業 有徳原支線水路他実施設計業務 報告書	1部
	松本支線 上ノ原支線	平成29年度駅館川農地整備事業 松本幹線・支線水路調査測量設計業務 報告書	1部
その他	その他業務実施上、監督職員が必要と認める資料		一式

#### 第2-5条(参考図書及び貸与料の取扱い)

第2-3条、第2-4条に示す参考図書、貸与資料等の取扱いは下記のとおりとする。

- 1 参考図書及び貸与資料の記載事項で相互に矛盾がある場合や解釈に疑義が生じた場合は、監督職員と協議する。
- 2 参考図書は設計作業時点の最新版を用い、設計作業中に改訂された場合には、監督職員と協議する。
- 3 貸与資料は原則として、第1回打合せ時に一括貸与するものとし、監督職員の請求があった場合のほか完了検査時に一括返納しなければならない。

### 第3章 作業内容

#### 第3-1条(作業項目及び数量)

本業務における主要な作業項目及び数量は、次のとおりである。

なお、詳細は、別紙1～5【設計作業項目内訳表】の○印で示すものとする。

作業項目	数量	備考
・ 施工技術検討(補足設計:パイプライン)		
① 板場幹線水路	L=0.622km	シングル配管
② 平山支線水路	L=0.253km	〃
③ 有徳原支線水路	L=1.237km	トリプル配管
④ 松本支線水路	L=0.510km	シングル配管
⑤ 上ノ原支線水路	L=0.305km	ダブル配管

#### 第3-2条(設計作業の留意点)

設計作業の実施に際し特に留意する点は、次のとおりとする。

- 1 受注者は常に業務内容を把握し、業務期間中であっても監督職員が資料の提出を求めたときは、速やかにこれに応じるものとする。
- 2 設計作業内容は、工事施工にあたって発生する施工上の課題に対する施工技術検討(補足設計)を想定している。
- 3 構造計算に必要な単位重量、設計荷重、許容応力度については、監督職員と協議する。
- 4 設計に当たっては、造成される施設が必要な機能及び安全で所要の耐久性を有するとともに維持管理、施工性及び経済性について考慮しなければならない。
- 5 設計に当たっては、鉄筋コンクリート構造物内に配管するような場合、配筋等(特にバルブ廻り)については、配管と配筋等が接触しないような構造設計をするものとする。

また、構造物のコンクリート打設時に管が浮き上がらないような対策を検討するものとする。

- 6 既設管との交差部、接続部については、貸与資料等により既設管の位置、標高、管種、管径を確認し、設計に反映させるものとする。
- 7 電算機を使用する場合は、計算手法及びアウトプット等の様式について事前に監督職員の承諾を得るものとする。
- 8 第2-3条、第2-4条及び共通仕様書(設)に示す参考図書、貸与資料や受注者が有する資料を参考にした場合は、その出典を明示するものとする。
- 9 施工上特に注意する点を特記する必要がある場合には、設計図面に記入するものとする。
- 10 当該業務で実施するコスト縮減対策の検討作業に関し、検討の視点、施策の提案内容及び比較検討の過程や結果等の成果については、報告書中に「コスト縮減対策」の章を別途設定し、取りまとめるものとする。なお、コスト縮減に関して新技術や新工法等の選定にあたっては、農業農村整備民間技術情報データベース(NNTD)及び新技術情報システム(NETIS)等を積極的に活用しなければならない。
  - ・農業農村整備民間技術情報データベース(NNTD)については、  
[http://www.nn-techinfo.jp/mdb\\_web/MdbTop.do](http://www.nn-techinfo.jp/mdb_web/MdbTop.do)を参照。
  - ・新技術情報システム(NETIS)は、  
<http://www.netis.mlit.go.jp/NetisRev/NewIndex.asp>を参照。
- 11 数量計算に当たっては、「工事工種の体系化」に基づき作成するものとする。
  - ・なお、「工事工種の体系化」に該当しない工種や用語については、監督職員と協議するものとする。
  - ・「工事工種の体系化」は[http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/kouzi\\_kousyu/](http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/kouzi_kousyu/)を参照。
- 12 設計作業にあたって必要となる調査及び設計作業項目の追加が必要と考えられる場合は、その旨監督職員と協議するものとする。

## 第4章 打合せ及び業務の成果品質確保対策

### 第4-1条(打合せ)

共通仕様書(設)第1-10条による打合せについては、主として下記の段階で行うものとする。なお、打合せは、web会議により実施するものとし、対面による打合せが必要な場合は監督職員と協議するものとする。

また、初回及び最終回の打合せには管理技術者が出席するものとする。

- 第1回 設計作業着手段階
- 第2回 中間打合せ(基本条件整理段階)
- 第3回 中間打合せ(水理検討完了時点)
- 第4回 中間打合せ(施設設計完了時点)
- 第5回 報告書原稿作成段階

なお、業務を適正且つ円滑に実施するために、受注者の業務担当は、業務打合せ記録簿を作成し、上記の打合せの都度内容について、監督職員と相互に確認するものとする。

ただし、調査基準価格を下回る価格で契約した場合には、上記に定める打ち合わせを含め、受注者の責により管理技術者の立ち会いの上で打ち合わせ等を行うこととし、設計変更の対象とはしない。その際、管理技術者は、共通仕様書(設)第1-11条に定める業務計画書に基づく業務工程等の管理状況を報告しなければならない。

### 第4-2条(業務の成果品質確保対策)

契約後業務着手時並びに最終打合せ時において、受発注者間の設計方針、条件等の確認の場として、次の会議を設置するので、管理技術者等の受注者代表は、次の事項並びに「業務の成果品質確保対策」(農水省WEBサイト)を十分に理解のうえ、対応するものとする。

- 1 業務確認会議
  - ・業務着手時に、管理技術者・担当技術者並びに事業所長、次長、担当課長(主催)、監督員、工事担当者が、設計方針、条件等の確認を一堂に会して実施することにより、業務を円滑と成果物の品質確保を図るものとする。

(1) 業務確認会議とは、発注者及び受注者が集まり、次の事項について確認を行う会議を開催するものである。なお、確認事項については変更する場合がある。

- ①設計条件・前提条件

- ②業務計画の妥当性
  - ③スケジュール
  - ④設計変更内容
  - ⑤その他：事業間連携、資材選定チェック、コスト縮減、環境対策等の促進等
- (2) 会議の開催については、監督員が指示するものとする。なお、開催時期の変更、開催回数追加が必要な場合は、監督員協議するものとし、規定の打合せ時以外に開催する場合の費用については、必要に応じ設計変更で計上する。
- 2 合同現地踏査  
管理技術者・担当技術者並びに事業所長、次長、担当課長（主催）、監督員、工事担当者が、必要に応じて合同で現地踏査を行うことにより、設計条件や施工の留意点、関連事業の情報、設計方針の明確化等、情報共有を図る。
  - 3 照査の確実な実施  
業務の最終打合せ時において、成果物のうち照査報告書については、照査を実施した照査技術者自身による報告を原則とする。また、最終打合せ時以外であっても、必要に応じて、照査技術者自身からの照査報告を求めることがある。
  - 4 当該業務成果による工事発注の際に、別途工事の受発注者が当該工事に対する「工事の施工効率向上対策」（農水省 WEB サイト）による工事円滑化会議及び設計変更確認会議を開催することとしており、同会議に出席要請があった場合には応じるものとする。なお、出席に必要な経費については、別途契約により対応することとする。
  - 5 業務確認会議において確認した事項については、打合せ記録簿に記録し、相互に確認するものとする。

## 第5章 成果物

### 第5-1条(成果物)

成果物を共通仕様書(測)第18条、共通仕様書(設)第1章第1-17条、共通仕様書(用)第1章第17条3に基づき作成し、次のものを提出しなければならない。

- 1 成果物の電子媒体(CD-R若しくはDVD-R) 正副2部
- 2 成果物の出力 1部(電子媒体の出力、市販のファイル綴じで可)

### 第5-2条(開示用成果物の作成及び提出)

第5条-1に記載している成果物(PDFファイル)に含まれる、「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」における「不開示情報」に該当する情報について、システムの編集機能により、その個所を黒塗りにする措置を行い提出しなければならない。

- 1 開示用成果物の電子媒体(CD-R若しくはDVD-R) 1部

### 第5-3条(成果物の提出先)

成果物の提出先は、次のとおりとする。

大分県宇佐市大字石田43-1  
九州農政局 駅館川農地整備事業所

## 第6章 契約変更

### 第6-1条(契約変更)

業務請負契約書第17条から第20条に規定する発注者と受注者による協議事項は次のとおりとする。

- 1 第2-2条に示す「設計条件」に変更が生じた場合
- 2 第3-1条に示す「作業項目及び数量」に変更が生じた場合
- 3 第4-1条に示す「打合せ」等に変更が生じた場合
- 4 第5-1条に示す「成果物」に変更が生じた場合
- 5 履行期間の変更が生じた場合
- 6 関係者協議等対外的協議により設計計画等に変更が生じた場合
- 7 その他

## **第7章 業務管理**

### 第7-1条(情報共有システムの業務について)

- 1 本業務は、受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより業務の効率化を図る情報共有システムの対象業務である。
- 2 情報共有システムは、「工事及び業務の情報共有システム活用要領」（農林水産省 web サイト参照）によるものとする。
- 3 受注者は、発注者から技術上の問題の把握、利用にあたっての評価を行うために聞き取り調査等を求められた場合、これに協力しなければならない。

## **第8章 定めなき事項**

### 第8-1条(定めなき事項)

この特別仕様書に定めなき事項又はこの業務の実施に当たり疑義が生じた場合は、必要に応じて監督職員と協議するものとする。

## 別紙1【設計作業項目内訳表「施工技術検討（補足設計） パイプライン」】

板場幹線水路

設計対象延長：L=0.622km ※シングル配管

作業項目	作業内容	作業実施	備考
1 現地踏査	設計区間を詳細に踏査し、施工技術検討（補足設計）に必要な事項を把握する。	○	
2 資料の検討	設計区間に関する資料収集及び貸与資料等を整理し、内容を把握するとともに作業計画を樹立する。	○	
3 路線計画案及び縦断計画の検討	想定している埋設物（横断管等）の埋設深度の変更や、新たな埋設物確認に伴う路線計画の変更及び縦断計画を検討する。	○	
4 水理検討 4-1 定常水理解析	詳細水理計算を行う。 （補足） ・水理ユニット区分（既設分土工間）毎に設計流量に対する全損失水頭を計算し、H・W 公式により水理計算を行い、口径及び水頭の適否を検討する。 なお、分土工地点の必要水位は、各団地の最遠点又は最高標高の何れかの水理条件の厳しい方から分土工までの想定管路距離より求め、水稲の検討を行う。	○	
4-2 非定常水理解析	詳細水理計算を行う。 （補足） ・水理ユニット区分毎に水撃圧を数値解析により計算し、この結果について経験則による値との比較を行って適切に水撃圧を予測する。	○	
5 構造計算	既設計段階の地質調査結果等の結果を踏まえ、各実施断面について内外圧に対する詳細構造計算を行う。 （補足） ・埋設管については、内外圧荷重の変化毎に管体の構造計算を実施し、スラスト対策工の検討を行う。	○	
6 図面の修正	平面縦断図及び詳細構造図等について、4 構造計算の結果から、該当箇所の図面修正を行う。 （補足） ・平面縦断図、スラストブロック構造図、標準断面図を各2枚とし、計6枚を想定している。	○	
7 数量計算書の修正	4 構造計算の結果から、該当箇所の数量計算書の修正を行う。 （補足） ・土工、管体工、スラストブロック工を各枚とし、合計6枚を想定している。	○	
8 照査	照査計画に基づき、業務の節目毎に照査を実施し、照査報告書の作成を行う。	○	
9 点検とりまとめ	水理・構造計算、数量計算・図面の点検とりまとめ及び業務報告書の作成を行う。	○	

## 別紙2【設計作業項目内訳表「施工技術検討（補足設計） パイプライン】】

平山支線水路

設計対象延長：L=0.253km ※シングル配管

作業項目	作業内容	作業実施	備考
1 現地踏査	設計区間を詳細に踏査し、施工技術検討（補足設計）に必要な事項を把握する。	○	
2 資料の検討	設計区間に関する資料収集及び貸与資料等を整理し、内容を把握するとともに作業計画を樹立する。	○	
3 路線計画案及び縦断計画の検討	想定している埋設物（横断管等）の埋設深度の変更や、新たな埋設物確認に伴う路線計画の変更及び縦断計画を検討する。	○	
4 水理検討 4-1 定常水理解析	詳細水理計算を行う。 （補足） ・水理ユニット区分（既設分土工間）毎に設計流量に対する全損失水頭を計算し、H・W 公式により水理計算を行い、口径及び水頭の適否を検討する。 なお、分土工地点の必要水位は、各団地の最遠点又は最高標高の何れかの水理条件の厳しい方から分土工までの想定管路距離より求め、水稲の検討を行う。	○	
4-2 非定常水理解析	詳細水理計算を行う。 （補足） ・水理ユニット区分毎に水撃圧を数値解析により計算し、この結果について経験則による値との比較を行って適切に水撃圧を予測する。	○	
5 構造計算	既設計段階の地質調査結果等の結果を踏まえ、各実施断面について内外圧に対する詳細構造計算を行う。 （補足） ・埋設管については、内外圧荷重の変化毎に管体の構造計算を実施し、スラスト対策工の検討を行う。	○	
6 図面の修正	平面縦断図及び詳細構造図等について、4 構造計算の結果から、該当箇所の図面修正を行う。 （補足） ・平面縦断図、スラストブロック構造図、標準断面図を各2枚とし、計6枚を想定している。	○	
7 数量計算書の修正	4 構造計算の結果から、該当箇所の数量計算書の修正を行う。 （補足） ・土工、管体工、スラストブロック工を各枚とし、合計6枚を想定している。	○	
8 照査	照査計画に基づき、業務の節目毎に照査を実施し、照査報告書の作成を行う。	○	
9 点検とりまとめ	水理・構造計算、数量計算・図面の点検とりまとめ及び業務報告書の作成を行う。	○	

別紙3【設計作業項目内訳表「施工技術検討（補足設計） パイプライン】】

有徳原支線水路

設計対象延長：L=1.237km ※トリプル配管

作業項目	作業内容	作業実施	備考
1 現地踏査	設計区間を詳細に踏査し、施工技術検討（補足設計）に必要な事項を把握する。	○	
2 資料の検討	設計区間に関する資料収集及び貸与資料等を整理し、内容を把握するとともに作業計画を樹立する。	○	
3 路線計画案及び縦断計画の検討	想定している埋設物（横断管等）の埋設深度の変更や、新たな埋設物確認に伴う路線計画の変更及び縦断計画を検討する。	○	
4 水理検討 4-1 定常水理解析	詳細水理計算を行う。 （補足） ・水理ユニット区分（既設分水工間）毎に設計流量に対する全損失水頭を計算し、H・W 公式により水理計算を行い、口径及び水頭の適否を検討する。 なお、分水工地点の必要水位は、各団地の最遠点又は最高標高の何れかの水理条件の厳しい方から分水工までの想定管路距離より求め、水稲の検討を行う。	○	
4-2 非定常水理解析	詳細水理計算を行う。 （補足） ・水理ユニット区分毎に水撃圧を数値解析により計算し、この結果について経験則による値との比較を行って適切に水撃圧を予測する。	○	
5 構造計算	既設計段階の地質調査結果等の結果を踏まえ、各実施断面について内外圧に対する詳細構造計算を行う。 （補足） ・埋設管については、内外圧荷重の変化毎に管体の構造計算を実施し、スラスト対策工の検討を行う。	○	
6 図面の修正	平面縦断図及び詳細構造図等について、4 構造計算の結果から、該当箇所を図面修正を行う。 （補足） ・平面縦断図、スラストブロック構造図、標準断面図を各2枚とし、計6枚を想定している。	○	
7 数量計算書の修正	4 構造計算の結果から、該当箇所の数量計算書の修正を行う。 （補足） ・土工、管体工、スラストブロック工を各枚とし、合計6枚を想定している。	○	
8 照査	照査計画に基づき、業務の節目毎に照査を実施し、照査報告書の作成を行う。	○	
9 点検とりまとめ	水理・構造計算、数量計算・図面の点検とりまとめ及び業務報告書の作成を行う。	○	

別紙4【設計作業項目内訳表「施工技術検討（補足設計） パイプライン】】

松本支線水路

設計対象延長：L=0.510km ※シングル配管

作業項目	作業内容	作業実施	備考
1 現地踏査	設計区間を詳細に踏査し、施工技術検討（補足設計）に必要な事項を把握する。	○	
2 資料の検討	設計区間に関する資料収集及び貸与資料等を整理し、内容を把握するとともに作業計画を樹立する。	○	
3 路線計画案及び縦断計画の検討	想定している埋設物（横断管等）の埋設深度の変更や、新たな埋設物確認に伴う路線計画の変更及び縦断計画を検討する。	○	
4 水理検討 4-1 定常水理解析	<p>詳細水理計算を行う。 （補足）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水理ユニット区分（既設分水工間）毎に設計流量に対する全損失水頭を計算し、H・W 公式により水理計算を行い、口径及び水頭の適否を検討する。</li> </ul> <p>なお、分水工地点の必要水位は、各団地の最遠点又は最高標高の何れかの水理条件の厳しい方から分水工までの想定管路距離より求め、水稲の検討を行う。</p>	○	
4-2 非定常水理解析	<p>詳細水理計算を行う。 （補足）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水理ユニット区分毎に水撃圧を数値解析により計算し、この結果について経験則による値との比較を行って適切に水撃圧を予測する。</li> </ul>	○	
5 構造計算	<p>既設計段階の地質調査結果等の結果を踏まえ、各実施断面について内外圧に対する詳細構造計算を行う。 （補足）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>埋設管については、内外圧荷重の変化毎に管体の構造計算を実施し、スラスト対策工の検討を行う。</li> </ul>	○	
6 図面の修正	<p>平面縦断図及び詳細構造図等について、4 構造計算の結果から、該当箇所を図面修正を行う。 （補足）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平面縦断図、スラストブロック構造図、標準断面図を各2枚とし、計6枚を想定している。</li> </ul>	○	
7 数量計算書の修正	<p>4 構造計算の結果から、該当箇所の数量計算書の修正を行う。 （補足）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土工、管体工、スラストブロック工を各枚とし、合計6枚を想定している。</li> </ul>	○	
8 照査	照査計画に基づき、業務の節目毎に照査を実施し、照査報告書の作成を行う。	○	
9 点検とりまとめ	水理・構造計算、数量計算・図面の点検とりまとめ及び業務報告書の作成を行う。	○	

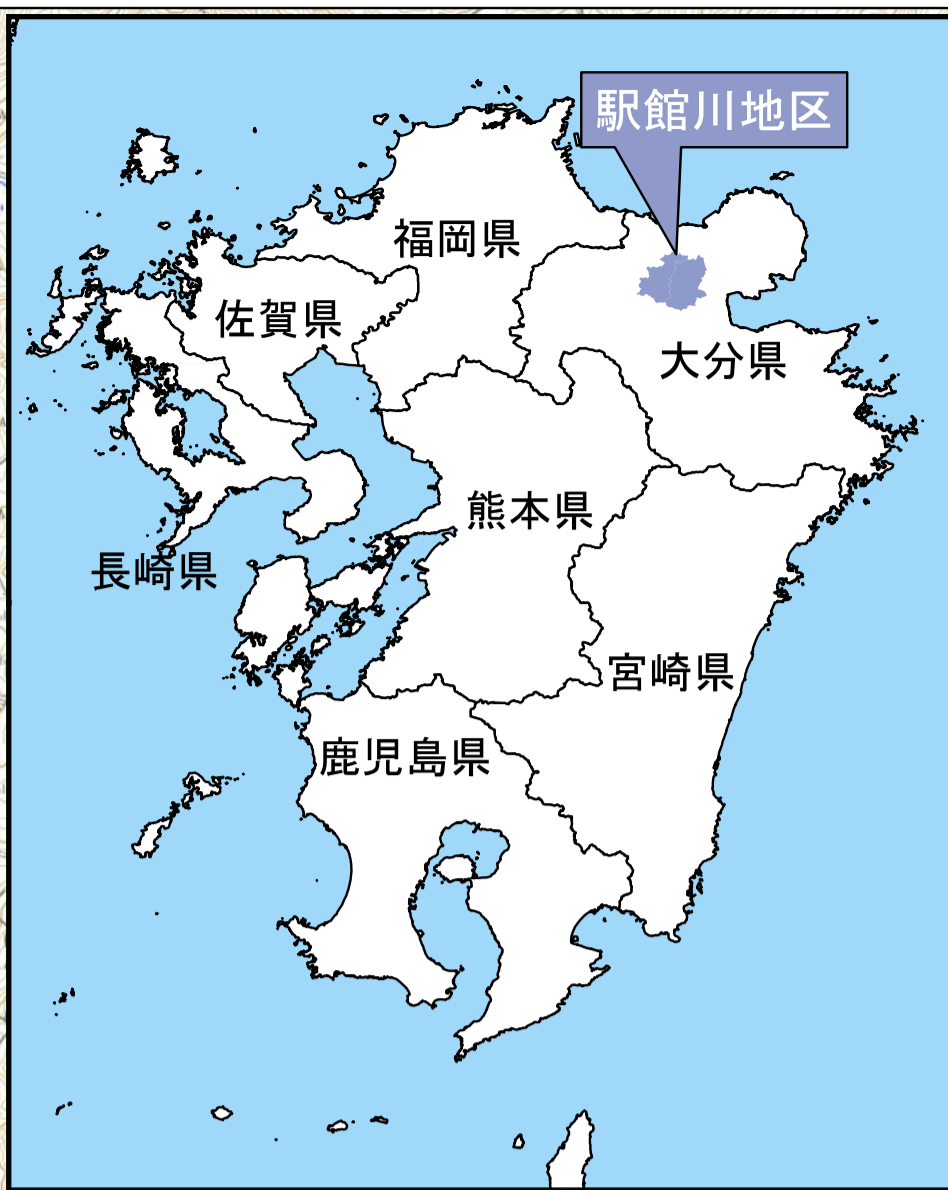
別紙5【設計作業項目内訳表「施工技術検討（補足設計） パイプライン】

上ノ原支線水路

設計対象延長：L=0.305km ※ダブル配管

作業項目	作業内容	作業実施	備考
1 現地踏査	設計区間を詳細に踏査し、施工技術検討（補足設計）に必要な事項を把握する。	○	
2 資料の検討	設計区間に関する資料収集及び貸与資料等を整理し、内容を把握するとともに作業計画を樹立する。	○	
3 路線計画案及び縦断計画の検討	想定している埋設物（横断管等）の埋設深度の変更や、新たな埋設物確認に伴う路線計画の変更及び縦断計画を検討する。	○	
4 水理検討 4-1 定常水理解析	詳細水理計算を行う。 （補足） ・水理ユニット区分（既設分土工間）毎に設計流量に対する全損失水頭を計算し、H・W 公式により水理計算を行い、口径及び水頭の適否を検討する。 なお、分土工地点の必要水位は、各団地の最遠点又は最高標高の何れかの水理条件の厳しい方から分土工までの想定管路距離より求め、水稻の検討を行う。	○	
4-2 非定常水理解析	詳細水理計算を行う。 （補足） ・水理ユニット区分毎に水撃圧を数値解析により計算し、この結果について経験則による値との比較を行って適切に水撃圧を予測する。	○	
5 構造計算	既設計段階の地質調査結果等の結果を踏まえ、各実施断面について内外圧に対する詳細構造計算を行う。 （補足） ・埋設管については、内外圧荷重の変化毎に管体の構造計算を実施し、スラスト対策工の検討を行う。	○	
6 図面の修正	平面縦断図及び詳細構造図等について、4 構造計算の結果から、該当箇所を図面修正を行う。 （補足） ・平面縦断図、スラストブロック構造図、標準断面図を各2枚とし、計6枚を想定している。	○	
7 数量計算書の修正	4 構造計算の結果から、該当箇所の数量計算書の修正を行う。 （補足） ・土工、管体工、スラストブロック工を各枚とし、合計6枚を想定している。	○	
8 照査	照査計画に基づき、業務の節目毎に照査を実施し、照査報告書の作成を行う。	○	
9 点検とりまとめ	水理・構造計算、数量計算・図面の点検とりまとめ及び業務報告書の作成を行う。	○	

# 令和7年度駅館川農地整備事業 駅館川地区管水路施工技術検討業務 位置図



平山幹線水路  
施工技術検討(補足設計)  
L=0.253km(シングル配管)

有徳原支線水路  
施工技術検討(補足設計)  
L=1.237km(トリプル配管)

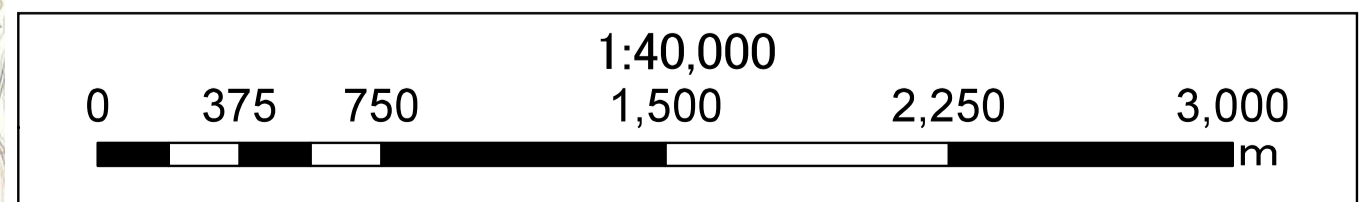
松本支線水路  
施工技術検討(補足設計)  
L=0.510km(シングル配管)

上ノ原支線水路  
施工技術検討(補足設計)  
L=0.305km(ダブル配管)

板場幹線水路  
施工技術検討(補足設計)  
L=0.622km(シングル配管)

業務名	令和7年度駅館川農地整備事業 駅館川地区管水路施工技術検討業務		
図面名	位置図		
年月日			
縮尺	s=1/40,000	図面番号	1
会社名			
事業所名			

凡例	
	用水路(既設利用)
	用水路(改修)
	揚水機場
	ファームポンド(既設利用)
	ファームポンド(改修)
	区画整理受益
	農業用排水受益



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものである。(承認番号 R4JHF 436)  
承認を得て作成した複製品を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。